

# 地方都市における芸術文化活動に公共ホールが果たす役割

－須坂市メセナホールの市民利用と自主事業の分析から－

中村文宣・曾我俊生

キーワード：地方都市、芸術文化活動、公共ホール、市民利用、自主事業

## I はじめに

今日、社会の成熟化や価値観の多様化が進んでいく中で、国民生活における余暇活動として芸術文化活動が改めて見直されている。こうした活動の拠点となっているのが、公共ホールや文化ホールなどと呼ばれ、音響設備の整ったホール、楽屋、練習室、多目的スペースなどの機能を有した公共ホールである。我が国では、1970年代から1980年代にかけて、全国各地の地方自治体で、いわゆる「ハコもの」行政の代表格として公共ホールなどの芸術文化施設の整備が積極的に行われてきた。その結果、現在では施設の地域的偏りや供給過剰（小野田ほか 1993）、ホールが行う自主事業の質の低下や施設間格差（柴垣・清水 1996）、施設の維持管理と住民の利用実態のアンバランス（新美・木多 2002）など様々な課題が浮かび上がってきている。

こうした現状を改善していくためには、自治体による文化行政の推進はもちろんのこと、公共ホールにおける自主事業の充実、地域住民による積極的な活用が必要とされている。曾田（2006）は公立文化施設における自主事業の分析から、都市部に立地する大規模施設を中心に、芸術監督など専門家を招聘した劇場運営やその施設を拠点とする専属劇団・楽団の存在が地域の文化力の向上に寄与していると指摘している。しかし、こうし

た取り組みはあらゆる地域の芸術文化施設で取り組むことができるものではない。大都市圏から離れ、財源も限られている地方都市の公共ホールがいかなる取り組みのもとで、自主事業の充実や積極的な市民利用を実現させていくのかを考えていく必要がある。

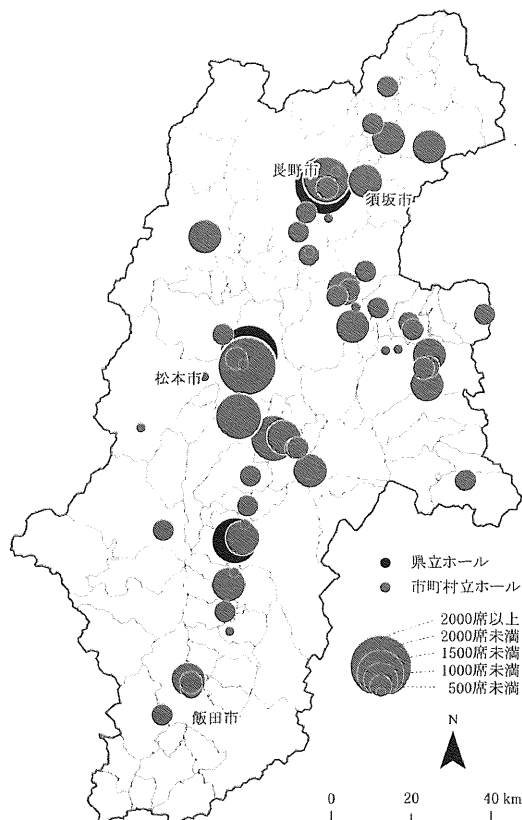
以上のことから本研究では、公共ホールの市民利用と自主事業に着目し、自主事業における具体的な取り組みと地域住民による公共ホールの活用実態を考察することで、地方都市の公共ホールにおける活動の特色と地域の芸術文化活動に公共ホールが果たす役割を明らかにすることを研究目的とする。

研究対象地域は長野県須坂市、研究対象とする公共ホールは須坂市文化会館メセナホールである。須坂市は県内最多の人口を有する長野市の東側に隣接しており、長野都市圏<sup>1)</sup>を構成する自治体の一つである。須坂市の人口は52,895人で県下80市町村中12番目の人口規模（2009年10月1日現在）である。江戸期には須坂藩の城下町として、また大笹街道と谷街道が交差する交易の要所として栄えた。明治期から昭和期にかけては製糸業が隆盛し、諏訪地域と並んで県内における製糸業の中心地となった。現在でも製糸業が盛んだった頃に建てられた蔵などが現存しており、観光施設や芸術文化施設として利用されている。

## II 研究対象地域における公共ホールの現状と位置づけ

### II-1 長野県における公共ホールの分布とその特徴

長野県には2010年現在、59の公共ホールが分布している（第1図）。その中で最大の施設規模をもつものが、長野市に立地している長野県県民文化会館で、大ホール2,173席、中ホール1,070席、小ホール300席と3つのホールを所有している。長野県ではこの県民文化会館をはじめ、長野県松本文化会館、長野県伊那文化会館と、県が設置した大規模な公共ホールが3か所ある。各市が設置したものは、まつもと市民芸術館、長野市民会館、岡谷市文化会館、塩尻市文化会館、飯田文化会館、須坂市文化会館などが挙げられる。したがって、県内の主な都市に大規模な公共ホールが

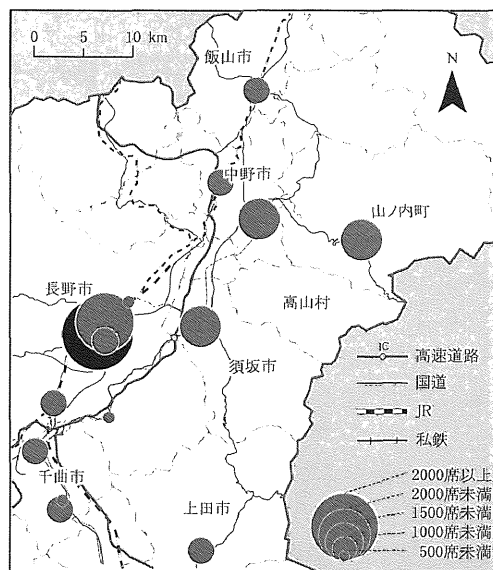


第1図 長野県における公共ホールの分布(2010年)  
(社団法人全国公立文化施設協会(2010)により作成)

建設されているといえる。長野県の公共ホールの分布は、長野市、松本市、伊那市という3つの核があり、さらにそれらの周辺にも大規模なものが立地するという特徴を有している。

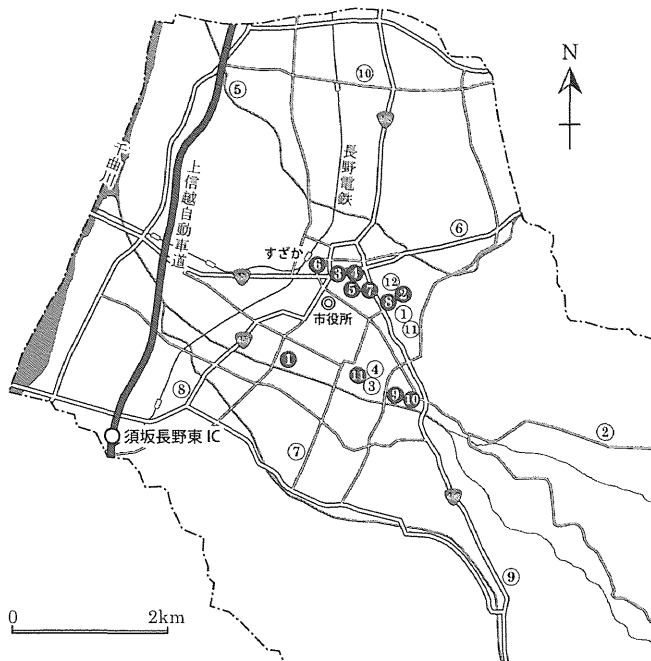
次に、長野都市圏に関して公共ホールの分布の特徴を、各ホールの総座席数から考察する（第2図）。長野県県民文化会館（3,543席）や長野市民会館（1,750席）の規模が大きく、次に須坂市民会館（1,429席）、志賀高原総合会館98（1,200席）、中野市市民会館（1,018席）と続いている。他にも中野市豊田文化センター（507席）、飯山市民会館（624席）、長野市篠ノ井市民会館（562席）などがあるが、これらは総じて施設規模が小さい。実態として、1,000人を超える来客数が見込まれるイベントでは、長野市、須坂市、中野市の公共ホールが選択肢として挙げられ、その中でも来訪者のアクセスの問題を考慮すると、長野市もしくは須坂市のホールが選択されることが多い。

須坂市文化会館は長野市から比較的近い距離にあり、また近くには上信越自動車道の須坂長野東インターチェンジがある。このことから、北信地



第2図 長野都市圏における公共ホールの分布(2010年)

(社団法人全国公立文化施設協会(2010)により作成)



番号	施設名
①	須坂市文化会館メセナホール
②	須坂市立図書館
③	須坂クラシック美術館
④	管絃会館ドリームホール
⑤	須坂市蔵のまち観光交流センター
⑥	シルキーホール
⑦	ふれあい館「まゆぐら」
⑧	ふれあい館「しらふじ」
⑨	須坂市版画美術館
⑩	世界の民俗人形博物館
⑪	須坂市立博物館

番号	施設名
①	須坂市中央公民館
②	豊丘地域公民館
③	臥竜山公会堂
④	南部地域公民館
⑤	豊洲地域公民館
⑥	日滝地域公民館
⑦	高甫地域公民館
⑧	井上地域公民館
⑨	仁礼コミュニティセンター
⑩	旭ヶ丘ふれあいプラザ
⑪	すざか女性未来館
⑫	須坂市旧上高井郡役所

第3図 須坂市における芸術文化施設及び生涯学習施設の分布（2010年）  
（須坂市役所資料により作成）

域の他の公共ホールと比較して、須坂市民文化会館は集客圏の広い公共ホールであるといえよう。

## II-2 須坂市における公共ホールと文化関連施設

須坂市には文化関連施設として、須坂市文化会館をはじめとする芸術文化施設が11施設、須坂市中央公民館をはじめとする生涯学習施設が12施設立地している（第3図）。

### 1) 須坂市文化会館メセナホール

須坂市文化会館メセナホール（以下、メセナホールとする）は1991年11月に開館した公共ホールである（写真1）。須坂市中心市街地に立地し、上信越自動車道須坂長野野東インターチェンジから3km、長野電鉄須坂駅からは1.5km（徒歩20分）と少し距離があるものの、須坂駅との間を結ぶバス路線の最寄りバス停から徒歩3分というアクセス環境にある。

須坂市にはメセナホールが開館する以前に、現



写真1 須坂市文化会館メセナホール  
（2010年5月 曾我撮影）

在の須坂市役所に隣接して旧市民会館（1962年開館）が立地していた。しかし、老朽化が進んだことから1987年から新文化会館の建設計画が進み、4年の歳月をかけ現在の場所に新たにメセナホールを建設した。なお、メセナホールの建物（建築面積4,916m<sup>2</sup>、床面積6,937m<sup>2</sup>）については須坂市

の所有であるが、土地（敷地面積19,682m<sup>2</sup>）については菅平牧場畜産農業協同組合からの借用地である。

メセナホールは鉄骨鉄筋コンクリート造で地上2階、地下1階からなっており、大ホール（1階席850席、2階席274席の1,124席、写真2）と小ホール（305席、写真3）の2つのホールと楽屋（2ホールで6室）、リハーサル室、練習室、会議室（2室）を有している。この他にプレイガイドも兼ねた事務室もある。特に大ホールは音響効果を最大限に考慮した構造になっており、クラシック音楽の演奏者をはじめ音楽関係者から、国内にある公共ホールの中でも音響に優れたホールの一つとい

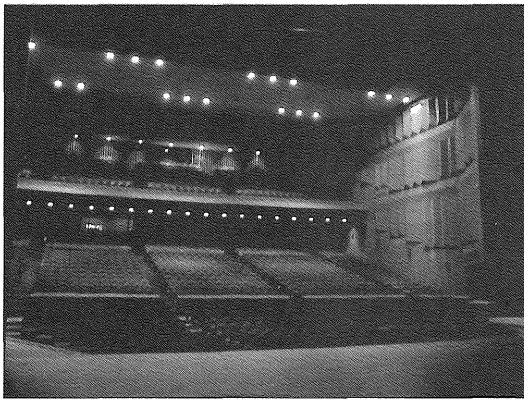


写真2 須坂市メセナホールの大ホール  
(2009年9月 中村撮影)

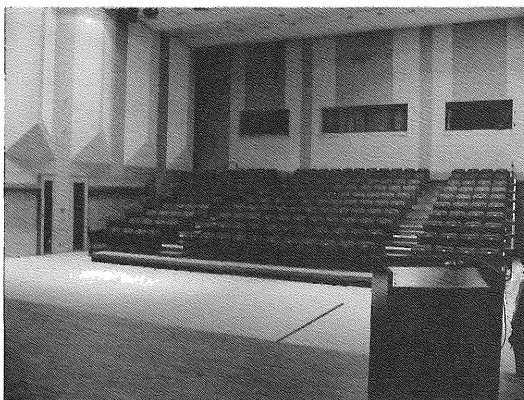
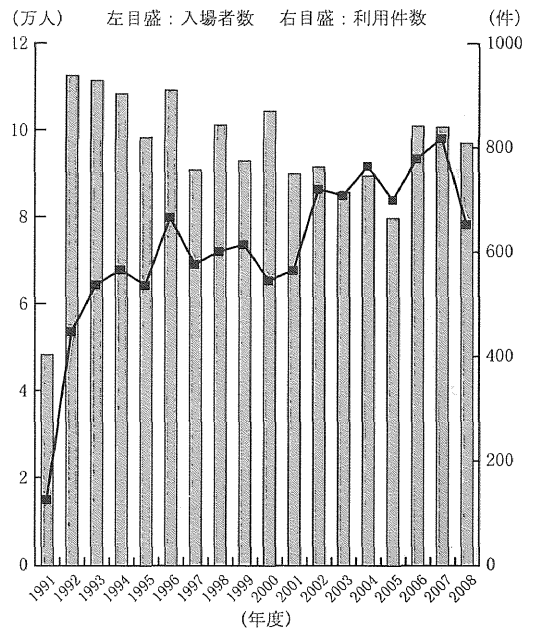


写真3 須坂市メセナホールの小ホール  
注) 階段状の座席は可動式で、壁面に収納することが可能である。

(2009年9月 中村撮影)

う評価を受けている<sup>2)</sup>。このホールの管理・運営は当初から、須坂市がメセナホール開館にあわせて設立した財団法人須坂市文化振興事業団によってなされている。また、ホールの管理・運営に係わる経費については須坂市からの文化振興予算と自主事業によるチケット収入、事業団の基金が充てられている。メセナホールの利用状況<sup>3)</sup>についてみると、入場者数は開館直後に最高値の11万2,838人（1992年）に達した後、若干の増減を繰り返しながら、7万9,903人（2005年）まで減少したものの、その後上昇に転じ、近年は年間10万人台の入場者数を維持している。また、利用件数についても開館当初から徐々に増加し、近年では年間約600～800件の利用件数を維持している（第4図）。人口約5万人の地方都市に立地するメセナホールにおいて、毎年総人口の2倍に相当する利用者を維持していることからみても、須坂市及びその周辺地域における芸術文化活動が盛んに行われている現状を伺うことができる。



注) 1991年度については、11月から3月の数値

第4図 メセナホール年間入場者数及び利用件数  
(1991-2008年度)

(須坂市文化振興事業団資料により作成)

## 2) その他の芸術文化施設

市内にはメセナホール以外に、市民が利用できる芸術文化施設が10施設あり<sup>4)</sup>、須坂駅周辺を中心市街地と臥竜公園周辺の2か所に集積している。このうち、中心市街地には市立図書館のほか、須坂クラシック美術館や笠鉾会館ドリームホールといった博物館施設、シルキーホールやふれあい館などの貸し館施設が立地している。また、臥竜公園周辺には市立博物館、須坂市版画美術館、世界の民俗人形博物館の3施設が立地している。こうした施設では、主に事前予約の貸し出しによる市民利用が行われており、博物館施設の展示スペースは市民グループによる展示発表に年間を通じて利用されている。また、貸し館施設では広いスペースを利用して、市民グループによる日常の活動や複数のグループによる合同の展示発表会などに利用されている。

## 3) 生涯学習施設

前述の芸術文化施設以外にも、公民館をはじめとする生涯学習施設が市民による芸術文化活動の活動拠点の一つとして機能している。市内には須坂市が管理・運営し、常勤の職員を置いている地域公民館が8施設あり<sup>5)</sup>、地域公民館を統括する中央公民館が中心市街地に立地している。またこれ以外にも、一般的に公会所や公会堂と呼ばれ、地域住民によって管理・運営されている公民分館がおおよそ大字や集落ごとにあり、69施設（2009年現在）が市内に立地している。

こういった施設は市民グループによる日常の活動に利用されるほか、中央公民館や地域公民館が主催する芸術祭や文化祭といった公民館活動が市民グループにとって貴重な発表の場となっていることも多い。さらに、市民会館が建設される以前には中央公民館や臥竜山公会堂といった、現在は生涯学習施設として運営されている施設で市民文化祭や各種コンサートが開催され、公共ホールの機能を果たしていた時期もあった。

## Ⅲ 市民によるメセナホール利用の実態と特性

一般的に公共ホールの利用形態としては、「自主事業（主催もしくは共催イベント）」と「貸し館事業」の2つが挙げられる。

自主事業とは、その当該ホールが主催もしくは共催となって企画・運営を行うものであり、それぞれの公共ホールでは年度ごとに予算と市民の要望を勘案し、どのようなジャンルのイベントをいくつ開催するのか決めていく。公共ホールという性格から、行われるイベントは幅広い年代に対応するものがよいとされ、一般的に演歌や教育的要素を含むものが多い。音響に特徴のある公共ホールや、文化行政に力を入れている自治体の公共ホールでは、行われるイベントにも多様性がみられる。その場合上記のジャンルに加え、クラシック音楽や若者向けのポップス音楽なども取り上げられる。

貸し館事業とは、当該ホールが場所を貸すのみでイベントには関与しないものである。地域住民やイベント企画業者がイベントを持ち込み、使用料をホールに払うことで実施される。行われるイベントの傾向としては、地域の音楽教室やサークルによる発表会、自治体や企業の会合やイベントなどが多い。

貸し館事業では基本的に使用料が発生するが、この使用料の発生しない、もしくは低価格であるものが「文教行政」による利用である。自治体や地域の学校が利用する場合、多くの公共ホールでは減免措置として利用料金が減額される。このため文化系部活動の発表や行政の会議、市民向けの催しに利用される。この文教行政による利用が多いのは、公共ホールならではの特徴と言える。

以下ではメセナホールの利用実態を、イベントスケジュールの分析やアンケート調査、聞き取り調査から明らかにする。

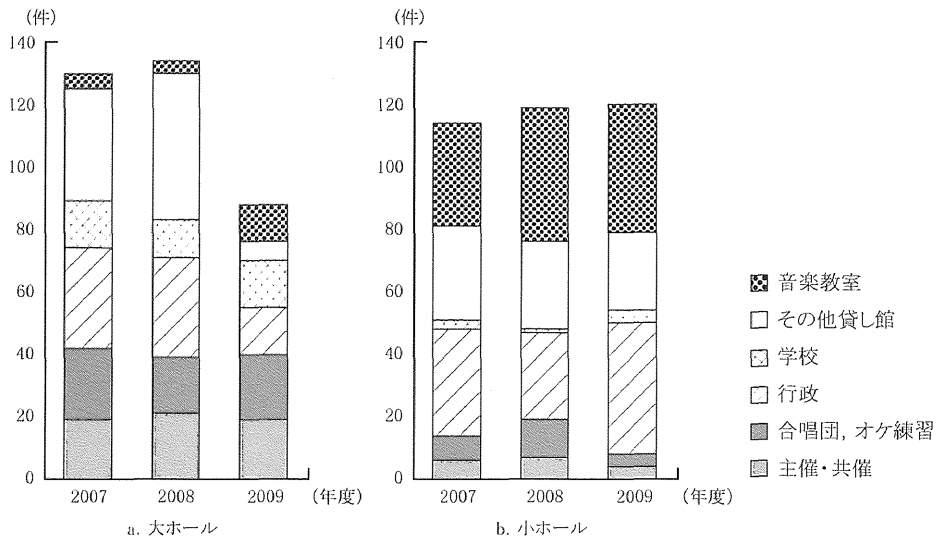
### Ⅲ-1 年間スケジュールにみる利用者分析

第5図はメセナホールで開催された催物をジャンルごとに表したものである。まず大ホールの催

物であるが、毎年定期的に自主事業が催されており、2007年は19件、2008年は21件、2009年では19件となっている。各年の内訳をみると、夏から秋にかけて行われる「信州岩波講座」<sup>6)</sup>、9月に行われる「吹奏楽の夕べ」など、須坂市全域の住民が参加する、規模の大きい催物が多い（第1表）。このことから、メセナホールが須坂の文化活動の中核を担う施設として機能していることがわかる。

また、合唱やオーケストラの練習に多く使われていることもメセナホールの一つの特徴である。これは「メセナ少年少女合唱団」、「メセナジュニアオーケストラ」という団体が高い頻度で練習しているためである。この2団体については後述するが、ともにメセナホールが主体的に関わって設立された団体である。それゆえ同団体の練習の場、発表会の場として積極的に利用されている。

先述した行政の利用に関しては、人権同和教育



第5図 メセナホールにおける催物開催件数

(須坂市文化振興事業団資料により作成)

第1表 メセナホールで開催された催物（2009年度、一部）

開催日	大ホール		小ホール	
	イベント名	主催	イベント名	主催
5月3日(日)	山崎まよし コンサート	須坂市文化振興事業団		
5月17日(日)	フォーエバーヤング	須坂市文化振興事業団		
6月14日(日)	須坂高校吹奏楽部定期演奏会	須坂高等学校		
6月20日(土)	マタイ受難曲	すざかパッパの会	須坂園芸高等学校	須坂園芸高等学校
7月2日(木)			修学旅行事前学習会	
7月14日(火)	THE BOOM コンサート	須坂市文化振興事業団	音楽教室発表会	音楽教室
8月1日(土)	長野県中学校吹奏楽コンクール 北信A地区大会	長野県吹奏楽連盟	音楽教室発表会	音楽教室
8月2日(日)	信州岩波講座 I		ダイヤモンド婚・金婚式	須坂市役所高齢者福祉課
8月9日(日)	小椋桂 コンサート	須坂市文化振興事業団	人権同和教育講座	須坂市役所人権同和教育課
9月6日(日)	吹奏楽の夕べ	須坂市文化振興事業団		
9月21日(月)	ダイヤモンド婚・金婚式	須坂市役所高齢者福祉課		
9月24日(木)			須坂市職没者追悼式	須坂市役所福祉課
11月1日(日)	須坂市民文化祭芸術祭	須坂市文化芸術協会		
11月10日(火)				
11月19日(木)	年末調整説明会	須坂市役所税務課		
11月29日(日)	メセナ少年少女合唱団定期演奏会	須坂市文化振興事業団	音楽教室発表会	音楽教室
1月10日(日)	平成20年度須坂市成人式	須坂市公民館		
2月15日(月)	保守点検		確定申告	須坂市役所税務課
3月1日(月)	須坂高校卒業式	須坂高等学校		
3月20日(土)	須坂高校吹奏楽部現役・OB合同演奏会	須坂高等学校		
3月28日(日)	メセナジュニアオーケストラ定期演奏会	須坂市文化振興事業団		

(メセナホールイベントスケジュールにより作成)

講座や年末調整説明会、戦没者追悼式などが行われており、須坂市役所内でも人権同和教育課・税務課・福祉課と、様々な部署が利用している。行政は多数の地域住民が集まる催物を開催することが多く、メセナホールはそれらの催物に対応できる須坂市の施設として機能している。学校利用に関しては、市内の中学校・高等学校の吹奏楽部が練習や発表会にメセナホールを利用している。夏の大会がある7月や8月、定期演奏会の行われる3月や4月など、毎年定期的に利用されている。

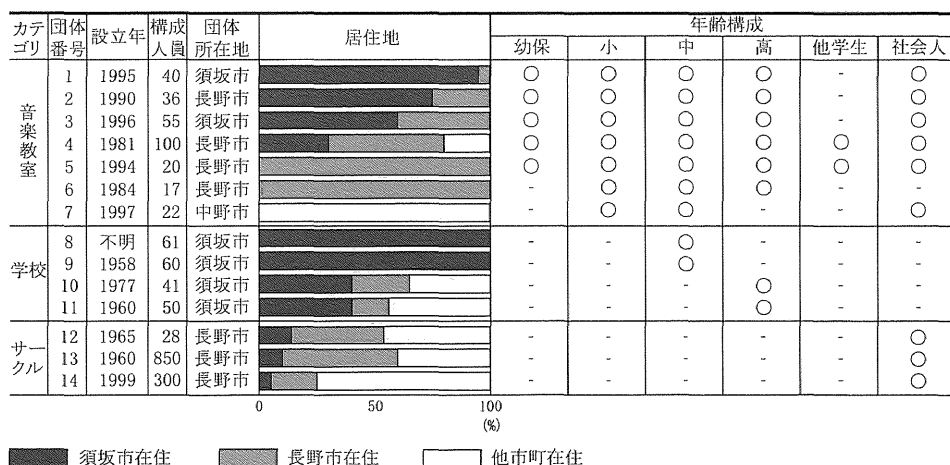
小ホールの催物は、音楽教室やその他の貸し館利用が多い。音楽教室がメセナホールを利用する理由としては、以下の2点が挙げられる。ひとつは小ホールの座席数が305席と、一つの音楽教室が発表会を催すには、参加者、保護者の数からみて適正である点。もう一つは須坂市において舞台・反響板・グランドピアノと設備が一通りそろった発表会場がメセナホールしかない点である。その他の貸し館利用に関しては、地元企業の会合、農業協同組合の総会、デジタルテレビ普及の催し、イベント企画業者による歌謡コンサートなどが挙げられる。2007年、2008年に比して2009年の利用が少ないのは、2008年まで行われていた「すざかオペラ」という多数の須坂市民が参加したオペラ活動が無くなったためである。

全般的にみて、市民がメセナホールを利用する際は、使用料の点からも小ホールであることが多い。また大ホール・小ホールとも利用者数の増減はあまりみられず、利用客はある程度固定されている。

### Ⅲ-2 人気の高い貸し館利用

第6図は近年メセナホールを貸し館で利用した団体の概要である。設立年、人数規模も様々な団体が利用しており、年代も就学前の子どもから老人までと幅広がっている。居住地に関しては須坂市在住のメンバーが多いが、須坂市から近い距離にある長野市や近隣の飯山市・中野市など長野都市圏からも多くの利用者が集まっている。先述したとおり、メセナホールは音楽教室の発表の場として特に多く利用されている。アンケート調査によれば、団体番号5～7のように須坂市在住のメンバーがいない団体にも活用されている。これらの理由としては「小規模団体が使用するのに適したホールであること」「職員・設備が充実していること」「長野都市圏の住民が来訪しやすい立地であること」の3点が挙げられる。

音楽教室の場合、メンバーは数十人規模であることが多い。そのため発表会を開催する際は小さな会場を主に使用するが、概して反響板がなく、



第6図 メセナホール利用団体の概要（2010年）  
（アンケート調査により作成）

座席もパイプ椅子を並べて使用するところが多い。そのような会場の場合、団体番号6によれば「小さい子どもたちは客席からステージがよく見えないこと」があるという。メセナホールの小ホールは「客席のつくりがしっかりして」おり、「ステージも比較的広いので、見栄えが良く、保護者からも好評」であるという。団体番号7によれば「しっかりしたホールでの発表会は生徒の演奏会マナーの勉強にもなる」という。

アマチュアの団体が公共ホールを使用する際、舞台管理や照明・音響などの調整を自分たちで行えないという問題がある。その場合、ホールに常駐している職員のサポート体制がいかに整っているかが重要になる。公共ホールは設置した自治体の職員、そこから枝分かれした財団法人が運営を行っているケースが多く、舞台設備に関して専門知識を有した常駐職員がいることは少ない。そのため多くの公共ホールでは外注によって舞台の管理を行っている。メセナホールも基本的には外注業者が舞台管理を行っているが、アマチュア団体の催物など、複雑な照明を必要としないケースであれば常駐職員が管理を行う。音楽教室の発表に適した照明の色合い、ピアノ演奏に適した録音のセッティングなど、メセナホールでは常勤の職員が舞台を管理する技術を持っているため、他の公共ホールに比べてアマチュア団体が使用するのに便利な施設となっている。

メセナホールは須坂市西部にあり、長野市の住民も自家用車で来訪しやすい位置にある。また上信越自動車道の須坂長野東インターチェンジが隣にあるため、長野県全体で活動している団体が長野都市圏で催物を企画した際、多くのメンバーを集められる公共ホールとして候補に挙がりやすくなっている。例えば団体番号13は「飯山市、中野市のメンバーも多く、長野市からも30分くらいで行くことが出来るので使用しやすい」という。「駐車場が広く（団体番号6）」「手頃である（団体番号14）」ことも広範囲からのメンバーを集めるのに適した環境であると言える。

メセナホールは小規模ながら設備の整ったホー

ルであり、職員のサポート体制が整備されており、また物理的に人が集まりやすい立地にある。ゆえにアマチュア団体が長野都市圏で催物を企画した場合、須坂市民はもちろんのこと、長野市や中野市、飯山市の住民にとっても、適した会場になっている。

### Ⅲ-3 芸術文化団体による定期利用

本節では、メセナホールにおいて年間を通じて定期的に活動している団体をとりあげ、その設立の経緯や活動内容を述べる。

#### 1) すざかバッハの会

すざかバッハの会は、須坂市在住のO氏が発足させ2003年から活動している、バッハに関する講座である。日本におけるバッハ研究の第一人者といわれる松本深志高校出身、国立音楽大学教授のI氏が、松本市の「まつもとバッハの会」で講座を開いており、それを受講したO氏がI氏に開講を依頼したのが始まりである。2003年から3年をかけ、年に5～6回のペースでバッハ講座を開始させた。当時は受講生数が予測できなかったため、規模の小さい須坂迎賓館などで行っていたが、のちにメセナホールの小ホールで行うようになった。現在では小ホール（305席）がほとんど埋まるほどの受講生がいる。近年では2008年と2009年の2年間で12回シリーズのバッハ講座を開講し、「マタイ受難曲」の各場面の解説、大ホールでの全曲演奏などを実施した（第2表）。

すざかバッハの会の運営は、O氏が在籍するコーラスグループの仲間で協力して行っており、十数人で実行委員会体制を敷いている。当講座は地元の新聞社が共催しており、後援には須坂市、小布施町、高山村の各教育委員会が入っている。須坂市のような地方都市において、専門的な講座が開かれ、継続されているのは、この地域の人々の芸術文化活動に対する積極的な取り組みと協力体制があるからだといえよう。



第2表 すざかバッハの会主催の講座一覧（2008～2009年）

	開催日	時間	場所	講義内容
第1回	2008年2月10日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(受難世界への導入), 他1曲
第2回	2008年4月13日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(香油を注ぐ女), 他1曲
第3回	2008年6月22日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(最後の晩餐), 他1曲
第4回	2008年8月17日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(オリブ山にて), 他1曲
第5回	2008年10月12日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(ゲツセマネの園での苦悩), 他1曲
第6回	2008年12月28日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(捕縛), 他1曲
第7回	2009年2月8日(日)	14:00～16:30	シルキーホール	マタイ受難曲(裁判の始まり), 他1曲
第8回	2009年4月12日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(ペトロの否認), 他1曲
第9回	2009年6月20日(土)	14:00～17:00	メセナ大ホール	マタイ受難曲(実演鑑賞)
第10回	2009年8月30日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(流れる涙), 他1曲
第11回	2009年10月11日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(ゴルゴタへ), 他1曲
第12回	2009年12月13日(日)	14:00～16:30	メセナ小ホール	マタイ受難曲(死と埋葬), 他1曲

(すざかバッハの会資料により作成)

## 2) メセナ少年少女合唱団

一般的に、公共ホールは年間の利用率が高くなく、それゆえ「ハコモノ行政」として批判されることがある。メセナホールではこの問題に対処するため、自らのホールを拠点とし練習や発表会を行う団体を設立させようとした。この考えから発足したのが「メセナ少年少女合唱団」と次項で挙げる「メセナジュニアオーケストラ」である。

メセナ少年少女合唱団は1995年に設立された団体で、現在のメンバー構成は小学生が37名、中学生が10名、高校生が5名となっている。メンバーの9割が須坂市在住であり、他には小布施町、高山村、長野市の児童生徒がいる。他の催物が開催されない日曜日に、月2回のペースで練習しており、合唱団の指導は以前須坂市内で音楽の教員をしていた方々が8名で行っている。毎年秋から冬の間に定期演奏会を開催するほか、須坂市が主催する市民向けの催物や、信州岩波講座にゲストとして参加する。毎年夏には合宿が行われ、学区や年齢を超えた児童生徒たちの交流が生まれている。

メセナ少年少女合唱団は保護者会の組織が確立されている。小学生で4班、中学生で1班、高校生で1班が構築され、出欠確認などの連絡網をまわしている。すべての行事はこの保護者会と指導者、メンバーの間でとり行っており、メセナホールが関与することはない。ただし、ホールと「メセナホール友の会」から補助金が毎年拠出されており、これが合唱団の運営に寄与している。

## 3) メセナジュニアオーケストラ

メセナジュニアオーケストラは須坂市在住のY氏らによって2003年に設立された。もともとメセナホールが開館した際に「メセナ室内アンサンブル」という団体が設立されたが、その団体は4～5年で解散したという。その状況を憂いたY氏が、メセナホール職員であるM氏と協力して設立したのが、メセナジュニアオーケストラである。地方都市においてはメンバー確保や資金調達が難しいことから、オーケストラ団体の設立は容易でない。しかし子どもたちが演奏する団体を立ち上げ、そこから文化的土壌を築きたいと願った両氏は、他県にある既存のジュニアオーケストラを視察し、須坂市内の各学校に呼びかけをしていった。同時に、設立意図に賛同した市内在住のプロ演奏家からの指導も取り付けた。その結果、現在では小学校3年生から高校生までの27名の児童生徒が在籍する団体となっている。メンバーの居住地は須高地域（須坂市、小布施町、高山村）が半数を占めているが、長野市や千曲市から参加するメンバーもいる。

2005年度から定期演奏会を開催し、初年度はメセナ少年少女合唱団と合同で行ったものの、翌年からは単独で開催するようになった。信州岩波講座や博物館でのミニコンサートに出席したり、地元の学校の吹奏楽部の定期演奏会にゲスト出演したりするなどしている。

地域住民が芸術文化活動を行う際、課題として挙げられるのが「活動場所の確保」であるが、メセナ少年少女合唱団ならびにメセナジュニアオー

ケストラは、事業団や保護者、地域住民の協力体制により活動場所を確保し、練習や発表会を充実したものになっている。すぎかバッハの会と同様、これらの団体も須坂市や周辺地域の人々の芸術文化活動に対する姿勢が積極的であるからこそ、成立する活動であるといえよう。

#### IV メセナホールにおける自主事業の展開

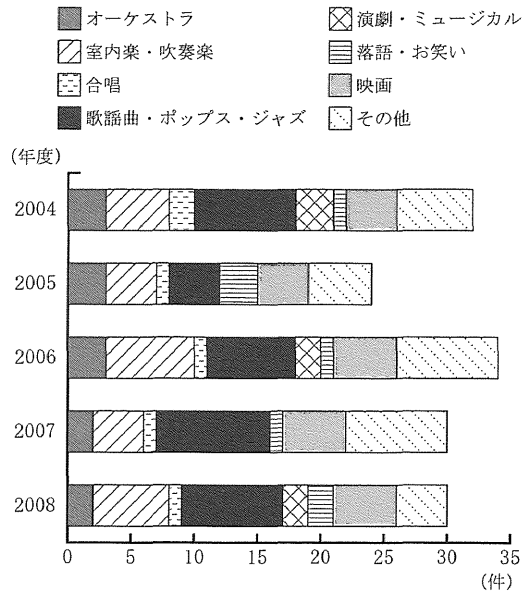
##### IV-1 ジャンル構成からみるメセナホールの特徴

メセナホールをはじめとする地方都市の公共ホールでは、都市部に比べて芸術鑑賞機会の少ない地域住民に対して、芸術鑑賞の機会を少しでも多く提供できるように、公共ホールが主催する自主事業の充実が欠かせない。こうした自主事業の取り組みは地域住民によるホール利用とともに、地域において公共ホールがその役割を十分に果たしているかどうかを示す一つの指標であると捉えることができる。

II-2で取り上げたように、メセナホールの利用件数は開館当初から増加傾向を維持している。こうした利用件数の伸びは市民による積極的なホール利用に加えて、メセナホールが開館以来、自主事業を積極的に企画し実施してきたことに因るところが大きい。

第7図はメセナホールにおける自主事業を公演ジャンル別に分類して催物件数を示している。前述のようにメセナホールは音楽ホールとしての評価が高く、中でもクラシック音楽に向いているとされている。メセナホールが企画している自主事業のジャンルをみても、オーケストラや室内楽などクラシック音楽の公演が毎年度開催されている。これにはホールの特性を生かした事業を行いたいという意向がうかがえ、メセナホールの一つの特徴であると捉えることができる。

しかしながら、クラシック音楽一辺倒にはなっておらず、あらゆる世代に向けてあらゆるジャンルの音楽を届けたいというメセナホール側のもう一つの意向を表すように、クラシック音楽以外の



第7図 自主事業におけるジャンル別催物件数 (2004-2008年度)  
(須坂市文化振興事業団資料により作成)

ポップスや演劇、お笑い、映画鑑賞など全体として公演ジャンルのバランスがとれたものとなっている。このような事業構成は、一つのホールで地域全体に芸術鑑賞の機会を提供しなければならない地方都市の公共ホールならではの特徴を示したもののといえよう。

##### IV-2 自主事業における開催形態の違い

メセナホールでは毎年およそ30件の自主事業を開催しており、そのうちのおよそ3分の2を主催事業として、残りを共催事業として開催している(第3表)。こうした自主事業における開催形態の違いは、バラエティに富んだジャンル構成を実現したり、自主事業の公演数を確保したりすることができるように、公共ホールと関係団体の工夫によって生み出されているものであることが明らかになった<sup>7)</sup>。

###### 1) 主催事業

公共ホールが企画・運営を行う主催事業は、ホールが公演を扱うプロダクションやプロモーターか

第3表 メセナホールで開催された主催・共催事業（2008年度）

	ジャンル	月日・場所	事業名	備考
主催事業	オーケストラ	5/3 大ホール	須坂メセナホールオーケストラ演奏会	
	ポップス	6/15 大ホール	郷ひろみコンサート	
	ポップス	7/13 大ホール	アニソンBIG3スーパーライブinメセナ	
	吹奏楽	9/7 大ホール	第51回 吹奏楽の夕べ	市民参加
	ポップス	9/12 大ホール	和田アキ子コンサート POWER&SOUL	
	室内楽	9/24 大ホール	鼓童 ONE EARTH TOUR	和太鼓演奏
	ミュージカル	10/4 大ホール	ファミリーシアター しまじろうと遊園地に行こう！	2回公演
	室内楽	10/19 大ホール	2008年 銀幕の旅	
	ポップス	10/24 大ホール	クレイジーケンバンド ZERO TOUR	
	室内楽	11/30 大ホール	ミラノ・スカラ弦楽合奏団	
	ポップス	12/7 大ホール	奥田民生コンサート FANTASTIC TOUR	
	ポップス	1/17 大ホール	ザ・クロマニヨンズ TOUR FIRE AGE	
	室内楽	2/6 大ホール	ホルン・室内楽の楽しみ 水野信行と水戸の仲間たち	
	映画	2/28 小ホール	優秀映画鑑賞推進事業 メセナ名作映画館	文化庁支援事業
	映画	3/1 小ホール	優秀映画鑑賞推進事業 メセナ名作映画館	文化庁支援事業
共催事業	落語	3/22 小ホール	柳家花緑独演会 花緑ごのみ	
	ポップス	5/18 大ホール	富澤一誠プロデュース フォーエバーヤング	友の会共催
	お笑い	7/16 小ホール	キングコング ライブ	プロモーター共催
	ポップス	8/8 大ホール	ベンチャーズコンサート	プロモーター共催
	その他	8/9 大ホール	第10回信州岩波講座 講座Ⅰ	実行委員会共催
	室内楽	8/15 小ホール	TRIO vol.3	公演者共催
	オペラ	8/23 大ホール	すざかオペラ「小さな煙突そうじ屋さん」	実行委員会共催
	演劇	8/25 小ホール	グリム・グリム・グリム	県内ホール共催、新聞社名義主催
	その他	8/30 大ホール	第10回信州岩波講座 講座Ⅱ	実行委員会共催
	その他	9/6 大ホール	第10回信州岩波講座 講座Ⅱ	実行委員会共催
	その他	11/4 小ホール	第10回信州岩波講座 高校生編	実行委員会共催
	合唱	11/23 大ホール	メセナ少年少女合唱団定期演奏会	公演者共催
	オーケストラ	3/29 大ホール	メセナジュニアオーケストラ定期演奏会	公演者共催

（須坂市文化振興事業団資料により作成）

ら当該ホールでの開催権を購入することで成立している。こうした取引では、プロモーターからの売り込みも行われているが、一般的に公共ホール自ら、自主事業に対する方針や意向の中で、地域やホールに見合う公演を選択している。

メセナホールでは主にクラシック音楽の公演を東京など都市部にあるプロダクションと直接取引している。こうした取引は、クラシック音楽の公演を開館当初から継続的に開催してきた中で築いた関係に基づくものである。これに対して、歌謡曲やポップスといったジャンルの公演は長野県内で活動するプロモーターを介して取引を行っている<sup>8)</sup>。こうしたジャンルの公演はアーティストの所属プロダクションの意向などによりツアー日程や開催地が限定されるなど制約が多いため、プロモーターを介して手配した方が公演の確保がしや

すいためである。

また、主催事業では文化庁が実施する補助事業や宝くじ助成事業による巡回公演を活用する場合もある。こうした補助事業は公募制であり採用される必要があるが、公演に係る経費を抑えることができるため、メセナホールをはじめ公共ホールではこうした補助・助成付きの巡回公演も自主事業へ積極的に取り入れている。

## 2) 共催事業・名義主催

メセナホールの主催事業として公演を開催する場合、その経費はホールの事業費から支出されており、主催事業を年に何回も実施する場合には開催経費の増加がホールにとって大きな負担となる。そこで、前述した補助・助成付きの巡回公演以外にも、自主事業における経費負担を減らす開

催形態として共催事業や名義主催という形態がとられる。

このうち共催事業はホールでの公演を、プロモーターやテレビ・ラジオ局、新聞社といった地元マスメディアなど事業パートナーと共同で行う形態である。事業パートナーとメセナホールの間では、会場使用料やプロモーション費といった開催経費やチケット収入について、その負担と利益の配分について事前に取り決めを行って公演を開催する。ホールにとっては、主催事業に比べ収入は減ってしまうものの、主にプロモーション（宣伝）に係わる経費負担を減らすことができ、また地元マスメディアが関わることで、多くの市民に向けて効果的に、地域的にもより広範囲にプロモーションすることを可能にしている。

またもう一つの形態である名義主催はメセナホールの主催及び共催事業において、地元マスメディアとの間で交わされる契約で、事業のプロモーションを行ってもらい代わりに、プロモーションを請け負ったマスメディアの名義を、事業の主催者に加えるというものである。その数自体は限られるもののこうした契約を結ぶこととなるべく経費をかけないように自主事業を開催する取り組みを行っている。

これに対して、プロモーションを請け負う地元マスメディアには、自らが主催する催物を開催する場合に公共ホール側の協力が得やすくなることに加え、企業として地域の芸術文化活動の発展に寄与しているという企業イメージが定着するなどメリットがある。

以上のように、メセナホールが市民に対して芸術鑑賞の機会を提供する自主事業では、限られた事業予算をより効果的に使用できるよう、地元プロモーターや補助・助成付きの巡回公演を活用するなど主催事業の手配に工夫を凝らすほか、開催経費の負担を抑えるために共催や名義主催といった開催形態をとって事業の充実を図っている。

#### Ⅳ-3 自主事業と地域住民との関わり

メセナホールの自主事業には、Ⅳ-1及びⅣ-

2で取り上げてきた、プロの演奏家や団体による公演の他に、地域住民が運営面や出演者として関わる事業もいくつか開催されている。こうした地域住民が関与する事業は開催経費の節約になるとともに、貸し館事業以外の場面で地域住民が活躍できる機会を提供することになり、メセナホールの自主事業に対する地域住民の理解を深めていくことにつながると考えられる。

##### 1) メセナホール友の会

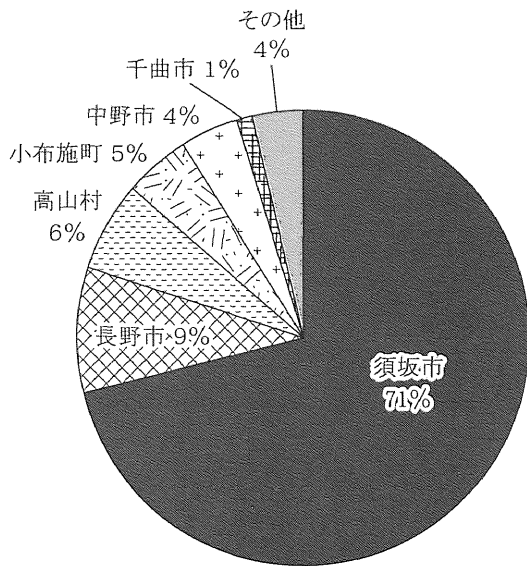
公共ホールが行う自主事業に地域住民が関わる一つの方法として友の会活動への参加がある。他の公共ホールと同様、メセナホールにおいても友の会が組織されている。

メセナホール友の会（以下、友の会とする）は、市民の立場からのメセナホールの活動への支援や会員相互の交流、新たな地域文化の創出を目的として、ホール開館から2年後の1993年に設立された。この友の会設立に際しては、須坂市民有志による友の会設立運動が起こるなど地域住民による自発的な取り組みが大きく影響した<sup>9)</sup>。

友の会には個人会員と家族会員、賛助会員の種別があり、規定の年会費を払うことによって、ホールスケジュールや公演情報が盛り込まれた情報誌の配布、ホール主催事業のチケット優待購入などの友の会特典を受けることができる仕組みとなっている。これに加えて毎年1回、友の会会員の意見を取り入れた催物をメセナホールとの共催事業で実施している。これまでに市内在住のフォークシンガーによるコンサートや人気落語家による独演会などが開催された。

友の会の会員数は約900名（2009年度）にのぼっている。市内居住者がその多くを占めているものの、会員全体の約4分の1は長野市をはじめとする近隣自治体の居住者となっており、友の会の会員構成でも、市内以外に長野都市圏からの利用があるメセナホールの利用実態を如実に表しているといえる（第8図）。

メセナホールにとって友の会の存在は、ホール利用者からの意見をダイレクトに吸い上げること



N=892人

第8図 メセナホール友の会会員の居住地別構成 (2009年度)  
(須坂市文化振興事業団資料により作成)

ができる窓口であると同時に、ホールの自主事業を実施していく上でのパートナーとして欠かすことができないものとなっている。

## 2) 吹奏楽の夕べ

メセナホールで開催される催物の中には、ホール開館以前からの長い歴史を持ち、現在まで市民参加で続いてきたものがいくつかみられる。中でも毎年9月に開催される「吹奏楽の夕べ」は2010年度で53回目の公演となる歴史あるコンサートである<sup>10)</sup>。このコンサートには市内中学校・高等学校の吹奏楽部や市内で活動する社会人の吹奏楽団体が参加する交流演奏会でメセナホールの自主事業として開催されている。各団体による演奏のほか、参加団体による全員合同演奏も行われる。

吹奏楽の夕べ以外にも、須坂市芸術文化協会が主催しメセナホールで開催される市民文化祭など、メセナホールを発表の場として活用した市民参加の催物が続いている。市民の間に芸術文化活動に積極的に取り組む素地があることを伺わせる。

## 3) 「メセナの風」事業

メセナホールでは自主事業をはじめとするホールでの催し物への入場者増加を念頭においた事業として、ホールで開催するコンサートに足を運ばない市民に音楽を身近に感じてもらうことを目的とした「メセナの風」という取り組みを2009年度から開始している。この取り組みはメセナホールを離れ、より地域住民に近い場所でミニコンサートを行うもので、ホール側から開催を提案したり、希望する施設や団体からの依頼を受けたりすることで開催している。これまでに市役所や博物館、温浴施設といった公共施設でのロビーコンサートや市内事業所の社員食堂でのランチタイムコンサート、コンビニエンスストアの駐車場での街角コンサートなど屋内・屋外問わず、様々な場所で開催し好評を博している。また、コンサートにおける演奏者を長野県内または須坂市内在住の音楽家や各種音楽団体に依頼することで、出演者にも聴衆にも地域住民が関わるような形をとっており、地域住民が主体となった取り組みとして今後も継続していくことを目指している。

## V おわりに

本稿では須坂市メセナホールを事例に地方都市の公共ホールにおける活動の特色と地域の芸術文化活動に市民ホールが果たす役割について、市民によるホール利用の実態とホールによる自主事業の取り組みに着目して論じてきた。

メセナホールは市民による芸術文化活動において、その成果を発表する場として開館当初から積極的に利用されてきた。なかでも、メセナホールを管理・運営する須坂市文化振興事業団と市民が連携しながらアマチュアの演奏団体を組織し、活動拠点としてメセナホールを活用していることや市民グループによる継続的なホール利用がいくつもみられることは、長野県内をはじめ他の地方都市のホールではあまりみることができない。メセナホールおよび須坂市の特徴と捉えることができる。また、須坂市民によるホール利用に加えて、

長野市を中心とする長野都市圏からのホール利用が多いことも明らかになった。この理由として、市民グループが利用しやすいホール規模であること、施設の設備や職員によるサービスが充実していること、周辺地域からのアクセスがよいことが示された。

メセナホールで実施されている自主事業では、芸術鑑賞機会が限られている地方都市の公共ホールとして、開館当初から音響が優れているというホールの特性を活かしながら、あらゆる世代が芸術文化に触れることができるように公演ジャンルのバランスを考えた取り組みがなされてきた。しかし、自主事業を充実させていくと、事業数の増加による開催経費の負担増をいかにクリアしていくかが公共ホールにとってクリアすべき課題となる。メセナホールでは主催事業に比べ開催経費が抑えられる共催事業や名義主催といった開催形態をとりながら、主催事業を含めた自主事業全体のバランスをとっていることが明らかになった。また、メセナホール友の会、市内在住の音楽家や市民グループを自主事業に取り込むことで、地域住

民に自主事業へのさらなる参加を促す取り組みもみられた。

地域住民による積極的なホール利用と公共ホールによる充実した自主事業の実施は、公共ホールが地域における芸術文化活動の拠点として機能していく上で欠かすことができない要素である。メセナホールでは、ホール利用においては、①地域の芸術文化活動を盛り上げていく上でメセナホールを活動の拠点として活用していくという認識が市民の間で広がっていること、②長野都市圏という大きな後背地を持っていること、自主事業においては、③実施する事業に地元マスメディアや地域住民をうまく取り込みながら充実した活動を行っていることの3点が効果的に作用することで、芸術文化活動の拠点としての役割をさらに高めているといえる。

須坂市メセナホールの事例は、地方都市における公共ホールが芸術文化活動の拠点として機能している成功例の一つとして評価されるべきものであろう。

本稿を作成するにあたり、2009年9月及び2010年5月の現地調査の際には、須坂市文化会館メセナホールの丸山尊氏、ホクト文化ホールの毛涯伸氏をはじめ長野都市圏の公共ホールの皆様、(株)スーパーキャストの宮坂文章氏、信濃毎日新聞社の吉川博氏をはじめ地元プロモーター及びマスメディアの皆様、須坂市中央公民館の坂口和巳氏をはじめ須坂市内芸術文化施設及び生涯学習施設の皆様、すざかパッハの会の大峯喜久代氏、メセナジュニアオーケストラの山崎照夫氏、すざかオペラ実行委員会の花岡君江氏をはじめ須坂市及び長野都市圏在住のメセナホール利用団体の皆様に資料提供及び聞き取り調査、アンケート調査など多大なる御協力を賜りました。

また本稿の進捗にあたり、手塚章先生をはじめとする筑波大学生命環境科学研究科の諸先生より御指導を賜りました。末筆ではありますが、ここに記し、厚く御礼申し上げます。

#### [注]

- 1) 長野都市圏は長野市への通勤率が10%を越える市町村で構成される都市圏である。長野市のほか3市4町2村(中野市、須坂市、千曲市、山ノ内町、信濃町、飯綱町、小布施町、高山村、小川村)の10自治体によって構成されている。なお、この都市圏設定は金本・徳岡(2002)による。
- 2) ホールの特性を示す指標の一つとして残響時間(音源が振動をやめた後に、引き続き聞こえる音の時間)というものがある。音楽の演奏には約2.0秒の残響時間が理想とされている(国内ではサントリーホールやオーチャードホールが2.0秒の残響時間)。メセナホールの残響時間は1.9秒であり、国内において優れた音楽ホールの一つであるといえる。
- 3) 利用状況を示す入場者数は自主事業をはじめとする公演への来場者数と市民利用による利用者数を

合算した値となっている。利用件数も同様に自主事業と市民利用をあわせた数値である。

- 4) 10施設のうち、4施設（笠鉾会館ドリームホール、須坂クラシック美術館、須坂市版画美術館、世界の民俗人形博物館）についてはメセナホールと同様、(財)須坂市文化振興事業団が指定管理者となり、管理・運営を行っている。残りの6施設については須坂市によって管理・運営がされている。
- 5) 地域公民館は人口規模や公民分館の数、旧村の範囲を考慮し区分された地域に1館ごと設置されている。区分された地域は10地域あり、このうち2地域は中央公民館が地域公民館としての役割を果たしている。
- 6) 「信州岩波講座」とは1999年からメセナホールで開始された講座である。活字離れを防ぎ、人々に考える力をつけることを目的に掲げ、実行委員会には須坂市・岩波書店・信濃毎日新聞社等が参画している。年数回にわたり、各界の著名人が講演や対談を行っている。
- 7) メセナホールをはじめとする長野都市圏の公共ホール及び自主事業に関わるプロモーターなどへの聞き取り調査による。
- 8) メセナホールの主要取引プロモーター3社のうち、長野県内に営業拠点を持つ事業者は1社のみであり、残りの2社は新潟市と金沢市に拠点を持つ事業者が事業展開地域を拡大する形で長野県をカバーしている。
- 9) メセナホール友の会(1993)『友の会情報誌「MESENA」創刊号(1993年4月・5月・6月号)』による。
- 10) 吹奏楽の夕べがいつから始まったのか定かではないが、1960年代に発行された須坂市公民館報には市内中学校のグラウンドで吹奏楽の夕べが開催されたことを報じる記事が掲載されている。

#### [文 献]

- 小野田泰明・松本啓俊・菅野 實 (1993)：市町村域における文化ホールの整備に関する研究 -文化ホールの地域的整備に関する研究 その1。日本建築学会計画系論文報告書, 443, 59-69.
- 金本良嗣・徳岡一幸 (2002)：日本の都市圏設定基準。応用地域学研究, 7, 1-15.
- 柴垣安芸子・清水裕之 (1996)：町村における公共文化施設の活性化に関する研究 -施設年間利用者数からみて。日本建築学会大会学術講演梗概集, 131-132.
- 社団法人全国公立文化施設協会編 (2010)：『平成22年度 全国公立文化施設名簿』社団法人全国公立文化施設協会。
- 須坂市史編纂委員会 (1981)：『須坂市史』須坂市。
- 曾田修司 (2005)：公立文化施設の新たな役割-公立劇場・ホールに専門家が関わることの意味について。跡見学園女子大学マネジメント学部紀要, 3, 51-62.
- 新美芽維・木多彩子 (2002)：大都市近郊の衛星都市における市民ホールの利用状況に関する研究-はこ物建築の実態と問題点について。日本建築学会近畿支部研究報告集, 209-212.
- 根本 昭・枝川明敬・垣内恵美子・笹井宏益 (1997)：『文化会館通論』晃洋書房。
- ふおらむ集団999編 (2000)：『信州岩波講座ガイドブック』信州岩波講座実行委員会。